

地震発生後、身の回りに起こること



地震発生直後

冬の朝5時に地震発生



揺れ・液状化による被害

- 耐震性の低い古い建物が多く倒壊。
- 揺れにより、多くの死傷者が発生。
- 沿岸地域などでは液状化による被害も発生。



火災による被害

- 木造住宅が密集する地域で複数の火災が発生。
- 停電から復旧したとき、電気機器や配線から火災が発生。



建物等の倒壊による人的被害

- 建物の下敷きになると、救助が困難に。
- 救助されても、体を強く圧迫されたことで命を落とすことも。



家具の転倒による人的被害

- 固定していない家具が倒れて、死傷者が発生。

広域的な停電による通信支障



- 停電で携帯電話などが充電できず、家族との連絡が取れなくなる。
- 通信設備の停止で、通話やインターネットが使えなくなる可能性も。

ライフライン・交通施設被害

- 水道や下水などのライフラインに被害が出て、お風呂やトイレが使用不能に。
- ガソリンスタンドに長い列ができ、給油が困難に。
- 停電が続くと、避難所で照明や冷暖房が使えず、不便な避難生活になることも。



道路被害

- 道路の応急復旧が進んでも、緊急車両が優先されるため一般車は通行が制限。

数日後



避難所の混雑、衛生環境の悪化、災害関連死の発生

- 避難所が満員になると、廊下や共有スペースにも人があふれる。
- 冬はインフルエンザなどの感染症、夏は衛生面の問題が起りやすくなる。
- 避難生活が長引くと、体調悪化や持病の悪化により命に関わることも。

車中泊を中心にエコノミークラス症候群の発生



- 車中泊が長引くと、暑さ・寒さや健康への影響が心配に。
- 冬季の屋外避難は継続が困難になることも。



物資不足

- 道路の寸断や規制で渋滞が発生し、物資や人の移動が滞る。
- 乳児用品や女性用品、薬などの生活必需品が不足。

孤立集落の発生

- 中山間地などの孤立した地域では、道路による物資の運搬が難しくなり、生活に必要なものが不足。
- 通信が途絶えると、避難者が自分で情報を得る手段がなくなる。

罹災証明書の遅れ



- 被災棟数の多さや道路の寸断などにより、罹災証明書の発行が遅れることも。

人手不足や資機材の不足による応急復旧作業の長期化

- 道路の被害などで復旧作業に必要な人員や資材が届かず、応急復旧が長引くことも。

広域避難の実施

- 復旧が長引くと、被災地以外への一時的な広域避難が必要に。
- 慣れない環境や人間関係で、体調を崩す人も。

※余震や降雨・積雪等により被害が拡大

1週間後

1ヶ月後